

行仙宿 ヘリコプター荷揚げ待ち受け作業

◇実施日 9月14日(木) 曇り後晴

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、濱野兼吉、大森洋、松本吉殖、
中前偉、大江加予子、畑林清子、梶野照雄 9名

9月4日に電源開発(株)の花森君から電話があり「9月13日(水)22番鉄塔(から池の南側)にヘリコプターで資材を運ぶので、ご希望の品物があれば同時に揚げます。」との有難い申し出があった。重量は300kgまでで前日の12日に21世紀の森近くのヘリ発着場へ持ってきてください、と言うことだったので是非お願いしたいと返事した。

7月7日、モノレール延伸ルートが送電線下に当たるとため電源開発(株)のお二人に向いて頂き、現場確認をお願いした。その際、ヘリでの資材運搬計画があれば当方の荷物も一緒に運んでいただけないか、とお話したがその要請に早速答えてくださった。

ヘリで荷揚げする物を検討し、重量物(砂、砂利、セメント、コンクリートブロック)と決め、それらの調達と袋詰めを行い、明細をファックスで連絡して準備を整えた。

10名の皆さんから参加の申し出があったが、3日前にヘリの荷揚げが14日に変更になったと連絡があり、参加者は9名になった。当日ヘリが飛行できるお天気になるように祈った。

9月12日、ヘリコプターの発着場へ荷揚げ品を持ちこむ。



9月12日 荷物を臨時ヘリポートへ運ぶ

午後1時前、湯川君と二人で21世紀の森手前の三差路に着く。電源開発(株)の花森君と合流し3〜4分ほど玉置神社方向に進んだところにある土捨て場に着く。ここが臨時ヘリポートのようだ。散水車と二人の作業員が先着していた。指定された場所に荷物を置き皆さんと少しお話をしすぐに引き上げた。

まだ時間も早いので以前から一度訪問したいと思っていた下葛川集落から2〜3km下方の神山地区へ行くことにした。

右折して1.5km位舗装道路を走るとそこで行き止まりになっている。下の方に3〜4軒、上の方に4〜5軒の家屋が見え郵便ポストもあるが人が住んでいる気配はなく、廃村になっているようだ。つい先日まで人の暮らしがあつたのだろうか、最初に家を建ててここに住むことを選んだ人は何故ここだったのかを考えてしまう。

9月14日、午前6時30分沖崎、湯川の2台で行仙宿に向かう。午前8時少し前に登山口到着。梶野君の車があるがモノレールが無い。洗濯済みの毛布などを降ろして準備しているとモノレールが降りてきた。梶野君が電源開発(株)の二人を endpoints まで送っていったら

い。モノレール荷台に毛布や背負子を満載して登りだす。終点からいつものように手分けして毛布などを小屋に運ぶ。雨が降ることは無さそうだが、稜線付近はガスで真っ白、笠捨山も見えない状態だ。ほぼ無風で湿度が高く小屋に着くまでに汗びっしりになった。



満載で出発

行仙宿に着く

ガスで視界不良

先着していた電源開発株の花森君は無線機で下と連絡を取り合っていたが、9時頃に予定していたテスト飛行が視界不良で出来ず、八尾からのヘリコプターがまだ臨時ヘリポートに到着していない、暫く天候状況を見るので遅れそうだと報告を受けた。

飛行ができるまでに時間がありそうなので荷揚げした毛布を整理する。今日持ち上げた毛布と先日までに荷揚げした毛布に洗濯済みの表示を付けて防虫剤を入れる。本日降ろす毛布を集めて梱包する。この作業に結構時間がかかり、時計を見ると午前11時近くになっていた。毛布の整理をしている間に梶野君は玄関西側の雨樋を

掃除した。泥が堆積して全く水が流れない状態だったようだ。



毛布に洗濯済みの表示を付ける

雨樋の掃除

屋外で待機中の花森君の所に行き状況を尋ねる。ガスが晴れず、午後1時までこのままの状態が続くとヘリは明日になる。その際は明日も登っていたらしく事になる。とのことで小屋に戻って皆さんにそのことを告げ、少々早い昼食とした。

食事もほぼ終わり雑談中ヘリの音が聞こえてきた。「来た、行くぞ」とみんなへ号令、午前11時30分だった。

小屋南側の登山者がテントを張っている開けた場所の真上にヘリの機体がやってきた。我々は少し離れた場所で待機する。

荷物を入れたモッコを吊下げたロープは20mほどあるようだ。電源開発株の二人が真下で待ち受け手動でフックを外す。離れて待つている我々も、ものすごい風圧を受けていた。荷物を外したとたんヘリは飛び去って行った。十津川の臨時ヘリポートからは5分もかかっていないようだ。降ろされた荷物の梱包を解きセメントやコン

クリートブロックをお堂横まで運ぶ。送電線工事用の資材も一部を22番鉄塔まで運んだ。電源開発株の二人は別の場所での作業のため下山して行かれた。今回荷揚げにご協力頂いたことに厚く御礼申し上げます。



へり到着

梱包を解く

荷物をお堂横に

へり荷揚げの対応作業を終え引き続き毛布の整理を行う。梶野、湯川の2名は「から池」横の斜木を切除した。

洗濯のため持ち降ろす毛布を担いで午後1時に下山開始。帰路R425の浦向道登山口の標識を取り付け直して解散した。

へりコプターでの荷揚げは平成26年2月21日、雪の中大江さん寄贈のかまどを揚げた日以来、約10年ぶりであった。この時のかまどは現役で活躍中だ。

電源開発株との日頃のコミュニケーションが必要だと今回特に思った。



本日の参加者

下山中

浦向道登山口の標識整備

今回の荷揚げ品は、砂120kg、砂利100kg、コンクリートブロック5枚50kg、セメント25kg、の計295kgだった。
(記：沖崎)

行動タイム

07:55 補給路登山口 08:12→09:20 行仙宿→11:21 へり到着→11:40 ブロックなどをお堂横に→13:00 下山開始→13:40 補給路登山口→14:10 浦向道登山口